再審請求中の死刑 反発

NGO「人権無視だ」

法務省は13日、17年半ぶりに再審請求中の死刑囚の執行に踏み切った。確定判決を重視し、死刑囚の中で執行の優先順位をめぐって不公平さを生じさせないようにしたい狙いがある。ただ、死刑廃止を求める市民団体からは反発が出ている。▼1面参照

西川正勝死刑囚(61)はこれまでに再審請求を複数回行い、その都度、棄却されたが、現在も再審請求中だった。

法務省はこれまで、死刑の重みを最大限考慮し、再審請求中だったり、事件の共犯者が公判中や逃亡中だったりした場合は、執行を回避する傾向があった。今回の執行で確定死刑囚は125人となり、うち92人が再審請求をしている。

前回、再審請求中に死刑が執行されたのは1999年12月。法務省内では「罪を受け入れた人が執行され、受け入れない人が執行されないのでは不公平感が生まれる」との声も出ていた。

今回の執行に人権団体からは強い反発が起きた。

国際人権NGO「アムネスティ・インターナショナル日本」の山口薫さん(39)は「政府の情報公開が不十分のまま死刑が執行され、2人の命が失われ、残念だ。政府は再審請求中でも執行できるという立場だが、国際人権法上は、機会を保障すべきだと考える国の方が多い。人権無視だ」と批判した。

一方、広島拘置所で執行された住田紘一死刑囚(34)は裁判員裁判を経た死刑の執行としては3人目。

被害者の派遣社員加藤みささん(当時27)の母親は14年6月、被害者支援団体が主催する講演会で、「事件は信じられない気持ちでいっぱいだった」と話していた。（小松隆次郎、山本亮介）

西川正勝死刑囚

西川死刑囚「納得いかず闘う」

アンケに回答

大阪拘置所で死刑執行された西川正勝死刑囚は2008年～15年にかけ、死刑廃止を求める市民団体が行ったアンケートに対し、自らの裁判への不信感をあらわにしていた。

「（検察側の）証人はコロコロと話が変わり、全く信用が出来ない。納得がいかないので闘っている」。DNA型鑑定の誤りから再審無罪となった「足利事件」を引き合いに、自らの事件の鑑定の信用性にも疑問を呈した。

一方、11年のアンケートでは長引く拘置所生活についても触れており「拘禁病、孤独病などの症状が出ており、ストレスもかなりたまっておりイライラしております」と不安定な心情がうかがえる。

心境を俳句にし、寄せてもいた。

重陽や　菊も目にせぬ獄舎かな

確定判決によると、91年12月、当時40～50歳代の女性を殺害して現金を奪うなどし、翌年1月には、大阪市で落語家の桂あやめさんの首を絞めて現金14万円を奪った。公判では起訴内容の大部分を否認していた。

ヒアリ退避ネット 出番

豊橋のメッシュ会社 あす発売

国内侵入に備え研究3年

ヒアリやマダニが嫌がる成分を織り込んだ退避グッズ＝愛知県豊橋市大村町

国内で相次いで確認されている猛毒を持つ外来種のヒアリ対策として、愛知県豊橋市のメッシュ製造会社「くればぁ」が退避ネットを開発した。ヒアリを寄せつけにくくしたネットで、網戸や蚊帳、手足を覆うカバーなどとして使えるという。14日から販売する。

同社は、海外で流行している感染症などに注目し、ネットの加工技術を生かした対策商品の開発に力を入れている。ヒアリ対策ネットは、米国でヒアリに刺されて死者が出ていることを知り、日本への侵入に備えて、3年ほど前から研究を続けてきたという。

新商品「虫退避ネットPRO」は、網戸や蚊帳用のネット、首の周りを覆うストール、腕や足用のカバー、ポンチョ型の退避グッズの4種類。編み目の大きさは、ヒアリが通れないように網戸や蚊帳用ネットは縦0・75ミリ、横0・85ミリ。退避グッズは0・1ミリ四方で、通気性も考慮した。

同社は十数年前に、マラリアやデング熱の感染を拡大させる蚊を遠ざけるネットを開発。蚊に有効とされるヒノキのにおい成分を糸に染みこませた。今回はこれを応用し、大学などからの助言を受けてヒアリが嫌う農薬エトフェンプロックスを新たに配合。6月には第三者の研究機関で、ヒアリに最も近い種類のアリを使って実験し、効果が確認されたという。

中河原毅社長(37)は「ヒアリに効果があり、人体に害がない成分を突き止めるのに苦労した。国内で人的被害が出る前に何とか間に合った」と話す。

問い合わせは、くればぁ（0532・51・4151）。（松永佳伸）

自宅から睡眠薬押収

殺人未遂容疑 准看護師を送検

千葉県印西市の老人ホームで、睡眠導入剤を混ぜたお茶を同僚らに飲ませて交通事故を起こさせたとして、准看護師の波田野愛子容疑者(71)が殺人未遂容疑で逮捕された事件で、県警は波田野容疑者の自宅と施設から複数の種類の睡眠導入剤を押収した。捜査関係者への取材でわかった。

捜査関係者と施設の入所者がそれぞれ医療機関から処方された薬だという。波田野容疑者は施設で唯一の准看護師で、入所者の薬を1人で管理していた。

施設では1月以降、強い眠気やめまいの症状を訴える職員が相次いでいた。県警は、睡眠導入剤を混ぜたとみられる飲み物の提出を施設側から受け、成分の鑑定結果や職員らの証言などから、波田野容疑者が薬の混入を繰り返していたとみて調べている。

県警は13日午前、殺人未遂容疑で波田野容疑者を送検した。

小久保被告に懲役15年求刑

新城・女性遺棄事件

愛知県新城市で昨年10月、山中の廃屋から近くの無職荻野サクコさん（当時71）の遺体が見つかった事件で、傷害致死などの罪に問われた住所不定、無職小久保裕弘被告(40)の裁判員裁判が13日、名古屋地裁岡崎支部であった。検察側は懲役15年を求刑。弁護側は「被害者の死は偶発的だ」として懲役9年程度が相当と主張し、結審した。

検察側は論告で「高齢で無抵抗な女性の被害者を、死に至るほど強い力で殴った行為は危険性が高い」と指摘。一方、弁護側は「被告は凶器を使って殴ったわけではなく重傷を負わせるつもりもなかった」と訴えた。

日本人35人 中国で拘束

振り込め詐欺関与か

中国当局が福建省で日本人の男女35人を詐欺容疑で拘束していたことが12日、日中関係筋の話で分かった。3日に日本の広州総領事館に拘束を通報した。今後、正式に逮捕される可能性がある。当局は日中の振り込め詐欺グループに関わっているとみている。警察庁がこのうちの1人について中国側に捜査協力を要請していた。

中国外務省によると、拘束は6月30日。グループによる詐欺被害は中国でも起きている可能性があり、中国当局が捜査している模様だ。

日中間では容疑者の引き渡しに関する条約が結ばれていないため、35人の身柄の扱いは中国政府の判断となる。犯罪行為が中国で発生していれば、日本での被害も中国で裁かれる可能性もある。（北京）

福井でバス横転 乗客ら21人搬送

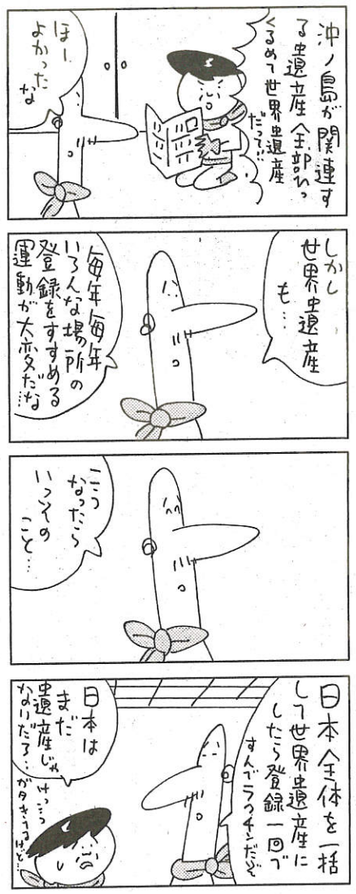
13日午前9時5分ごろ、福井県あわら市細呂木の県道で、大型バスが道路左側の路肩に横転した。バスには運転手1人、乗客20人が乗っており、全員が病院に搬送された。命に別条はないという。県警あわら署によると、あわら温泉（あわら市）の宿泊施設から、石川県小松市の小松空港に向かう途中だったという。嶺北消防組合によると、乗客は40～80代の関東方面から来た旅行客だという。

将棋 名人戦 順位戦A級

（12日、上が勝ち）
久保利明王将 2勝0敗 — 行方尚史八段 0勝2敗

地球防衛家のヒトビト

しいあがり真



いつまた、君と　戦後の混乱期を懸命に生きた家族の映画。向井理が企画、尾野真千子主演。公開中

朝日・しんぶんギフト　離れて暮らすご家族に朝日新聞を「仕送り」しませんか。0120・85・9533

確かな情報をネットでも Astand　朝日新聞が有料で提供する情報サービス配信サイト。価値あるコンテンツをネットでも

ササエさんよりぬき カツオくん 長谷川町子 定価1,080円(税込) A5判　お求めは書店、ASA（朝日新聞販売所）、朝日新聞出版ホームページでどうぞ

ニュースEX au携帯に情報配信